

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 さかわねむ 酒匂合歓さん(花巻市)

取材担当 中部農業改良普及センター 田村七海

花巻市東和町で令和3年から養豚業を開始し新規就農した、酒匂合歓さんを紹介します。

酒匂さんの両親は自然農園を経営しており、父親が行っていた養豚業を引継ぐ形で新規就農しました。酒匂さんは学生時代に農業について勉強していくうちに、アニマルウェルフェアに配慮した農業をしていきたいと思うようになりました。そこで自身の理念に基づいた農業ができる両親の自然農園で養豚業を開始しました。

現在は養豚で年間出荷 30 頭を目標としていますが、将来的には年間出荷 50 頭を目指します。

また、水稻や果樹の栽培にも取り組んでいく予定です。

養豚業では 24 時間放牧すること、飼料は花巻産で規格外等の穀物・野菜・果物等を使用すること等特徴的な取組を行っており、酒匂さんのこだわりが見受けられます。

昨年は、事業を活用して牧草をカットするシリンダカッタや獣害対策の電気牧柵を購入し、更なる安定生産を図っています。

今の目標は現在父親が担当している部門や経営を少しずつ引継ぐことですが、自然に触れながら農業体験ができる農泊もいずれ経営に組み込んでいきたいとのこと。

自然豊かな東和町の担い手の一人として、今後の活躍が期待されます。



放牧地に電気牧柵を設置する酒匂氏



事業を活用して購入したシリンダカッタ